

交流会活動記録

「大学院修了後の研究・大学との関わり」というテーマのもと、最初に3名の修了生から、現在の活動状況が報告されました。看護の小林智美様は大学院で取り組んだガン患者様の就労支援に関する研究を元に、職場内でニーズ調査を繰り返しながら、就労支援システムの実現までの取り組みを報告されました。検査の鈴木彩菜様は臨床の業務の中で効率的に研究を継続するための心がけや具体的なツールを紹介してくださいました。リハの篠原智行様は、白田研究室の同門会の立ち上げ、同門会のメンバーの共同研究に対するニーズがあり、メンバーからグループで行う研究テーマを募り、グループ分けやリーダーの配置を決めることで、主体的に共同研究が促進されたことが報告されました。3名の発表後のディスカッションでは、修了生が現場で研究を継続するために支援として、大学にしかない、測定ツール・解析手法等の提供、現場のスタッフが忙しい中でも研究に取り組めるような側面支援（業務の効率化、業務内で研究を行えるシステム作り、業務と並行して研究に取り組めるよう研究の負担の軽減・サポート）等の意見が寄せられました。また、教員からは、修了生の素晴らしい活躍を知ることができ、感動したとの感想がありました。

次に齋藤研究科長から「保健学研究科ができる支援」として同窓会組織の再編、研究者ネットワークの創設、研究者助成制度、研究費申請や研究情報の支援の構想が報告されました。今後、人口減少社会の中で、保健・医療とデジタルの双方の専門知識を持った人材育成が求められ、それに対して保健学研究科が取り組む、パブリックヘルス学環や実践的保健学人材育成プロジェクト等の取り組みも紹介されました。

最後に、参加者で情報交換を行い、集合写真を撮影して閉会となりました。閉会後も熱心に意見交換が行われました。参加者からは刺激をもらった、励みになるなどの感想があり、今後も交流を広げていきたいと感じました

(山上)

